

平成21年1月29日

全国大学国語教育学会

平成20年度 学会通信 第3号

全国大学国語教育学会事務局

理事長 吉田裕久

厳寒の候、学会員の皆様にはご健勝のことと存じます。

昨年11月に開催されました第115回福岡大会も、盛会となりました。大会事務局のご尽力と会員の皆様のご協力に、改めて感謝申し上げます。

事務局移転から1年が経とうとしています。新学習指導要領の実施、国語教育研究の研究課題の国際化など、本学会が取り組むべき課題は内外で広がっています。事務局一同本学会の発展のために力を尽くして参ります。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

#### ◆第115回福岡大会 総会議事録

総会に先立って、福岡大会事務局の前田真証氏からあいさつがあった。その後、議長の選出が行われ、慣例に従って、前回茨城大会の開催地区である関東地区の理事 町田守弘氏が選出された。なお、総合司会は常任理事の中洌正堯氏が務めた。

#### I 議事

##### 1. 『国語科教育』第65集編集状況

編集委員長の鶴田清司氏が、次の二点について、前日に開催された編集委員会の報告を行い、審議の結果承認された。

- ・投稿論文については、26編中10編（うち実践論文は2編）を採録するものとし、そのほかに1編（研究論文）を再審査とする。
- ・書評については、4月から8月に刊行された図書から1編、平成15年度までさかのぼってリストアップしたものの中から3編、合計4編の対象図書を決定した。

##### 2. 課題研究「国語学力調査の意義と問題」の出版について

研究部門の塚田泰彦氏から、課題研究として取り組んできた「国語学力調査の意義と問題」の研究成果について、研究発表をもとにした論考に加えて会員からの公募論文も掲載する形で出版する計画が提案され、審議の結果、基本的な計画について承認された。具体的な計画については、今後研究部門で立案することとなった。

##### 3. 英語版学会ホームページの作成について

広報部門の松山雅子氏から、英語版の学会ホームページを作成する計画について提案がなされ、承認された。今後具体的な検討を広報部門で進めることとなった。

#### 4. その他

特になかった。

### II 報告

#### 1. 『国語科教育』 「書評に関する申し合わせ」について

鶴田氏から、これまでの「書評に関する申し合わせ」について、次の二点に関して見直しを行った旨の報告があった。

- ・対象図書の遺漏の問題があり、今後は以前のものについても取り上げることができるようになる。
- ・現行4頁という分量規定が執筆者の負担になっているので、今後は3頁とする。

#### 2. 各部門報告

テキスト委員会委員の有澤俊太郎氏から、次の3点の刊行および編集の計画について報告があった。

- ・『国語科教育実践・研究必携』は1月末から2月中に出版する。
- ・『新たな時代を拓く 小学校国語科教育研究』は2月末までには刊行され、新年度には使用可能である。
- ・『中学校・高等学校国語科教育研究』は、高等学校学習指導要領の告示の状況を見ながら、現在立ち上げ段階にある（担当は前田真証・山元隆春両氏）。

#### 3. 今後の学会開催について

理事長の吉田裕久氏が今後の開催予定について紹介するとともに、来年度、再来年度の大会について次の通り改めて案内が行われた。また、23年度以降の開催について協力の要請があった。

- ・第116回大会（秋田大学）…2009年5月30日、31日に開催（阿部昇氏）。
- ・第117回大会（愛媛大学）…2009年10月17日、18日に開催（日程の変更あり）（三浦和尚氏・中西淳氏）。
- ・第118回大会（東京学芸大学）…2010年5月29日、30日に開催予定。
- ・第119回大会（鳴門教育大学）…日程は未定（村井万里子氏）。

#### 4. 事務局員の交代について

吉田理事長から、事務局員が、前任の富安慎吾氏の10月1日付け島根大学赴任に伴い、奥美里氏に交代したことの報告があった。

#### 5. その他

特になかった。

以上

※福岡大会の感想（理事の方にお寄せいただいたもの）は、学会ホームページに掲載しています。

## ◆第116回秋田大会のご案内（第1次）

秋田大会事務局 実行委員長 阿部昇（秋田大学）

来年度春に開催される秋田大会について、大会事務局からご案内いたします。

- 第116回大会は、平成21年5月30日（土）、5月31日（日）に秋田大学にて開催いたします。

編集委員会、常任理事会は、前日の5月29日（金）「秋田キャッスルホテル」（秋田駅徒歩5分）にて行います。なお、編集委員会、常任理事会、理事会の議事案内、出欠確認は学会事務局からご連絡いたします。

- 学会参加については、事前申し込みとなります。

（JTB秋田支店より参加申込書等が、学会員に郵送されます。3月末予定。）

- 大会2日間の概要（予定）

会場：秋田大学教育文化学部（2日間とも）

<第1日目 5月30日（土）>

午 前：自由研究発表（教育文化学部3号館）

昼：理事会（教育文化学部1号館2階会議室）

午 後：総会（教育文化学部3号館145室）

パネルディスカッション：

テーマ「戦後民間教育運動と国語科教育研究」

（教育文化学部3号館145室）

懇親会＝パーティーギャラリー・イヤタカ（秋田市内）

<第2日目 5月31日（日）>

午 前：課題研究発表：テーマ「国語科教師の実践的力量をどう育むか(1)

ーライフヒストリーの視点からー

（教育文化学部3号館145室）

午 後：自由研究発表（教育文化学部3号館）

<前日日程 5月29日（金）>

午 後：公開講座：「国語科授業分析の方法(2)」

（公開講座のみ秋田キャッスルホテル）

※使用教室等、今後一部変更があるかもしれませんが、ご了承ください。

## ◆第116回 秋田大会・自由研究発表者の募集について

### 1. 募集区分

自由研究発表

### 2. 発表等の申し込み手順

(1) 往復はがきに次の事項をご記入の上、お願いいたします。

- ①発表区分 自由研究発表
- ②発表題目 (申し込み後の変更は不可)
- ③氏名 (ふりがなを必ずつける)
- ④所属 (職名, 電話番号, メールアドレス)
- ⑤住所, 電話番号, 緊急時連絡先 (携帯電話)

\*返信はがきに, 自分宛の郵便番号, 住所, 氏名を必ず記入して下さい。

(2) 申し込み先(秋田大会事務局)

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
秋田大学教育文化学部 教科教育学講座 阿部 昇 研究室宛

(3) 研究発表申し込み締め切り

2月27日(金) 必着 締め切り後は受け付けません。

(4) 発表要旨集の原稿締め切り

4月17日(金) 必着 締め切り後のものについては要旨集が白紙となります。

3. 大会全般についての問い合わせ先 (できるだけメールにてお問い合わせください。)

阿部 昇 秋田大学教育文化学部 (研究室)

TEL& FAX 018-889-2618

E-mail abe@ed.akita-u.ac.jp

阿部 昇 秋田大学教育文化学部附属小学校 (校長室)

TEL 018-862-2593

◆全国大学国語教育学会編『国語学力調査の意義と問題』原稿募集について

全国大学国語教育学会・研究部門

全国大学国語教育学会の研究部門では, 新たな課題研究の試みとして, 「国語学力調

査の意義と問題」というテーマを設定し、過去3回の学会においてパネルディスカッションを開催してきました。この一連の研究協議や意見交換を通して、改めて、PISA やTIMSS など国際的な学力調査、「全国学力調査」（文部科学省）など国内的な学力調査をめぐって、さまざまな見方・考え方があり、国語教育界のみならず、日本の教育政策、学校における教育課程、教育方法、さらに教育評価のあり方など多方面にわたって重要な問題を提起しているということが明らかになってきました。

そこで研究部門では、こうした課題研究の成果をもとにして、「国語学力調査の意義と問題」というテーマで本を出版することを計画しました。これによって、この問題に関する研究の基礎資料を提供するとともに、今後の研究の蓄積・発展を図るための土台にしたいと考えています。

本書の構成は下記の通りで、第1部～第3部は、過去3回の課題研究における登壇者（パネリスト・コーディネーター）の方々にご執筆をお願いすることになりました。また、第4部では、広く学会員からも原稿を募ることになりました。

## 『国語学力調査の意義と問題』（全国大学国語教育学会編）

はじめに

序章 国語学力調査の研究にあたって

第1部 学力論・方法論の視点から国語学力調査を検証する

有元秀文・服部 環・鶴田清司・松崎正治

第2部 歴史的・国際的視点から国語学力調査を検証する

田中耕治・松友一雄・堀江祐爾・小川雅子

第3部 政策的・社会文化的視点から国語学力調査を検証する

福田誠治・井上一郎・笠井正信・寺井正憲

第4部 国語学力調査について考える（仮題）

投稿論文（4編）

付録 基本文献の紹介

おわりに

索引

これまでの3回の研究協議をふまえた論考や新たな視点からの論考を奮ってご投稿いただければ幸いです。なお、紙幅の関係で、4編程度の掲載を予定しておりますので、ご投稿いただいた論文の採択の有無は研究部門で決定させていただきます。予めご了承ください。また、総ページ数は180ページ程度で、出版社は明治図書を予定しております。原稿料・印税につきましては、学会事務局にご一任下さい。

### 『国語学力調査の意義と問題』投稿要領

1 原稿は横書きで、10ページ（1ページ＝34字×27行）程度とします（題目を

付すこと)。プリントアウトした原稿と元データ原稿(フロッピーディスクまたは添付ファイル)を下記の宛先までご投稿下さい(「投稿原稿在中」と明記してください)。

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学教育学系 塚田泰彦

TEL 029-853-6732 FAX 同左

tsukada@human.tsukuba.ac.jp

- 2 原稿の締切は、2009年4月30日(必着厳守)とします(7月刊行予定)。
- 3 見出し番号は、1, 2, 3..., その下位は(1)(2)(3)..., さらに下位は①②③...のようにして下さい。
- 4 本文中の年号は、「2007(平成19)年」のように、西暦(和暦)をお書き下さい。
- 5 引用文献(参考文献)の示し方は、著者名・書名(論文名)・出版年・出版社・ページ数(必要があれば)の順でお願いします。
- 6 書名は『 』, 論文名は「 」で表記して下さい。
- 7 文体は「である」調として、なるべく平易な文体でお書き下さい。
- 8 本文の最後に、お名前とともに奥付等に用いる勤務先・役職を明記して下さい。

#### ◆『国語科教育』第66集 投稿募集について

第66集 編集委員長 大内善一

下記の要領により、『国語科教育』第66集の原稿を募集いたします。

募集要領は学会ホームページにも記載されております。

1. 投稿論文は、平成21年3月1日(日)から3月31日(火)(消印有効)までの期間に受け付けます。
2. 原稿の送付先は下記の通りです。

〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号  
広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座内  
全国大学国語教育学会事務局
3. 封書にはかならず「投稿原稿在中」と朱書き書留で郵送してください。
4. 原稿は、4部(コピー可)送付してください。
  - (1) そのうちの1部には、題名のあとに氏名を記し、論文の最末尾に( )をつけて所属を、行をかえて原稿発送年月日を、それぞれ1行ずつ取って記してください。  
また、その論文の前に、氏名・所属・連絡先を明記した用紙を添付してください。
  - (2) あとの3部については、氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないでください。
5. 原稿は、原則としてワープロまたはパソコンで打ち出し、フロッピーを添えて送ってください。その際、フロッピーに機種名・ソフト名を書き添えてください。(例:「一

太郎2007」)

6. 原稿は未発表のものに限ります。ただし、口頭発表やプリント類の場合は、この限りではありません。
7. 募集の枠を「研究論文」「実践論文」「資料」の三つとしますので、どの枠に応募したものであるかがわかるように、そのことを題名の前に明記しておいてください。  
ただし、投稿論文の採択の枠付けについては、編集委員会におまかせください。
8. 図表などの類は、本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示してください。  
なお、縮小する場合は、読者が判読できないなどということがないように、8割以上の縮小率で収めてください。また、「注」は本文と同じ書式でそろえてください。

付記

- (1) 引用文献、参考文献は、原稿末尾に「注」で明記してください。
- (2) 原稿の返却はいたしません。控えをとっておいてください。
- (3) 原稿の郵送は、書留をお願いします。
- (4) 連続掲載は、原則として2回までとなっています。

<参考>

#### 『国語科教育』投稿要領

- 1 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリントの場合はこの限りでない。
- 2 論文原稿は、縦書きまたは横書きで原則としてワープロを使用する。
- 3 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字詰原稿用紙ほぼ40枚(8ページ分)以内とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。
  - (1)横書きの場合  
23字×44行×2段(1ページ 2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。)
  - (2)縦書きの場合  
33字×31行×2段(1ページ 2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。)
- \*引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。  
ただし、図表についてはこの限りではない。
- 4 論文原稿は4部(複写でよい)送付するものとする。原稿は原則として返却しない。
- 5 原稿は、氏名、所属、連絡先を付記し、全国大学国語教育学会事務局に送付するものとする。
- 6 投稿論文は、上期においては8月1日から8月31日までの期間、下期においては3月1日から3月31日までの期間に受け付けるものとする。

◆事務局からのお知らせとお願い

■平成21年度にかけてのおおよその学会活動予定

- 3月7日(土) 常任理事会(於:名溪会館)
- 3月 編集委員一部改選
- 3月末 学会誌論文投稿締め切り
- 3月末 『国語科教育』第65集発行
- 5月30日(土)・31日(日) 第116回秋田大会(秋田大学)  
(5月29日編集委員会・常任理事会 5月30日理事会)
- 6月末 平成21年度「学会通信」第1号発行 会費納入
- 8月 編集委員一部改選
- 8月末 学会誌論文投稿締め切り
- 9月末 平成21年度「学会通信」第2号発行
- 9月末 『国語科教育』第66集発行
- 10月17日・18日 第117回愛媛大会  
(6月16日編集委員会・常任理事会 6月17日理事会)
- 1月末 平成21年度「学会通信」第3号発行
- 3月末 学会誌論文投稿締め切り
- 3月末 『国語科教育』第67集発行

■学会費納入のお願い

会費未納の方は、宛名ラベルに記されている会費請求金額をご覧ください、同封の郵便振替用紙にて納入をお願いいたします。

学会費未納3年以上の会員の方は、会員資格を失うという措置をとらせていただいております。学会誌の発送は、未納の場合、翌年より停止いたします。会の運営は会費によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

なお、行き違いでご納入いただいた場合、失礼の段どうかお許し下さい。

郵便振替口座番号 01370-4-70223  
加入者名 全国大学国語教育学会

◆新入会員の紹介(2008年11月22日承認)

福岡大会の常任理事会で承認された新入会員の方々をご紹介します。





## ◆テキスト刊行のご案内

テキスト編集委員会

2009年1月刊行

全国大学国語教育学会編集『新たな時代を拓く 小学校国語科教育研究』

(総頁数, 208頁/定価, 1600円)

全国大学国語教育学会は、1951年以来国語教師を養成する諸大学における国語科教育法のためのテキストを発刊してきました。爾来半世紀を越えて、常に最も新しい国語学習指導の動向をふまえた改訂を重ねてきました。本書は、望月善次前理事長の指示で編集作業がはじまり、1月末に、平成20年告示の新学習指導要領を受けた新訂版として刊行されます。

全6章からなり、「Ⅰ 国語教育の意義」は、国語教育の原論を扱い、「Ⅱ 国語科教育の構造」は、国語科教育の基礎理論を取り上げています。「Ⅲ 国語科授業の計画」「Ⅳ 国語科授業の実際」は、授業論として計画理論と指導理論を示しています。「Ⅴ 初等国語科教育の歴史」は、これまでの国語科教育史を通観し、「Ⅵ 国語科教育の今日的課題と展望」は、現下の課題と今後の展望を行うという時代的な取り組みを提示しました。執筆者は、49名にのぼり、まさに全国大学国語教育学会の総力を挙げたテキストとなっています。

「はじめに」では、本書刊行の意義が次のように述べられています。(一部抜粋)

国語科教育は、学校におけることばの学習の営みである。小学校国語科教育は、その基盤である。今日、ことばの学習は、国語科だけでなく、全教科でというのが一般的である。むろん国語科以外でも、教科書を読み、思いや考えを書き、グループで話し合いが行われる。しかし、それらは、その学習を円滑に、効果的に習得するために、手段として行われることが多い。国語科は、その読む・書く、話し合う(聞く・話す)力そのものを育てるのが、独自の領域であり、任務・責任である。

これまでも国語科は、常に基礎・基本教科として位置づけられてきた。国語科が教科として成立(1900年)してからも、すでに100年以上の実績を持っている。その上に立って、いま私たちは、「新たな時代を拓く」国語科教育を創造しようとしている。情報化・価値観多様化・国際化社会の中で、コミュニケーション力の不足、コンピュータなどIT技術の日常化、各種メディアの利活用(リテラシー)が喫緊の課題となってきた今日、ことばの学習はさらに重要になってきた。

全国大学国語教育学会は、これまで国語教育の研究・実践をリードしてきた。その総力を結集して、ここに『新たな時代を拓く小学校国語科教育研究』を世に送る。本書が、これからの新たな時代の国語科教育の研究・実践を切り開く礎石として活用していただければ幸いである。(全国大学国語教育学会理事長吉田裕久)

次頁に、本書の構成を示します。

学会員各位のご高配を賜り、広く活用の道を拓いていただければ幸いです。

2009年1月刊行

全国大学国語教育学会編集『新たな時代を拓く 小学校国語科教育研究』

(総頁数, 208頁/定価, 1600円)

はじめに/目次

I 国語教育の意義

- 1 人間とことば      2 言語文化と言語生活      3 国語科教育と国語教育

II 国語科教育の構造

- 1 国語科教育の目標と国語学力    2 国語科教育の内容    3 国語科教育の方法  
4 国語科教育の評価

III 国語科授業の計画

- 1 学習者の実態とその把握      2 年間計画・単元計画  
3 学習指導案の意義と作成      4 教材研究の方法      5 教材開発  
6 「言語活動」の構想

IV 国語科授業の実際

- 1 話すこと・聞くことの授業 話すこと・聞くことの指導の目標と内容/話すこと・  
聞くことの形態と指導方法 ○スピーチ○対話○話し合い・討論  
2 書くことの授業 書くことの指導の目標と内容/文章の種類/学習者の発達と指  
導の方法 ○低学年の指導○中学年の指導○高学年の指導  
3 読むことの授業 文学的文章指導の目標と内容/文学的文章指導の方法 ○物語  
文○詩・短歌・俳句/説明的文章指導の目標と内容/説明的文章指導の方法/説  
明的文章指導の内容/読書指導の方法  
4 伝統的な言語文化の授業  
5 国語の特質に関する授業 言語の機能/言語感覚/文字・表記/文法/語彙・語  
句/言葉遣い・敬語/書写  
6 評価の観点と方法

V 初等国語科教育の歴史

- 1 明治期・大正期・昭和戦前期      2 昭和戦後期・平成期

VI 国語科教育の今日的課題と展望

- 1 各教科等の学習と国語教育      2 国語科教育における「活用と探究」  
3 国語科教育と学校図書館      4 国語科教育と日本語教育  
5 国語科教育とメディアリテラシー      6 国語科教育における幼・小連携  
7 国語科教師の力量形成

付録

- 1 近代国語教育史年表      2 関係法規抄      3 小学校学習指導要領 国語  
索引